

アミーゴ会だより

2010年7月
(メルマガを改題)
No. 3: 2010-III



発行人：上原尚剛
編集長：渡辺道雄
編集人：河嶋正之
事務局：関口重雄

会員の投稿記事



陶磁器学校師弟OBのTOLUCA 回帰セミナー

—日本メキシコ友好400年記念登録行事参加報告—

メキシコ・日本アミーゴ会 会員 櫻田 武

日本メキシコ友好400年を記念して当然、メキシコ市・グアダラハラ市などでも数多の行事がおこなわれた。日墨協会・日墨商工会議所・日墨学院共催で、日本の数県からの郷土踊りの社中が多数参加して2009年11月22日のレフォルマ通りを一時閉鎖しての「日本の祭り」始めとして、美術展・音楽会などの民間側での多くの催しが種々行われた。

メキシコ州都トルーカ市でも2010年1月23日から2月6日まで、Colegio de Arte y Ciencias de la Vida(生命科学芸術学院)主催の Seminario de Cerámica Tradicional Japonesa Mexicana(日本メキシコ伝統陶磁器セミナー)が行われ、これに参加した。

この学校は1981年に開校したもので、ラテンアメリカでは唯一といってよい陶磁器造形を学ぶ学校である。油彩・版画・彫刻などで現に活躍しているレベルの高い芸術家たちが、陶芸という造形・媒体に新しいチャレンジをしようということで、専修生として勉学する学校にもなっている。

今やメキシコでの現役最高齢画家のルイス・ニシザワ師(メキシコ州立図書館や近代美術館での巨大な陶板力作でも高名な日系二世の画家)には、当初より顧問としてご指導いただいている。

1981年の創立以来、卒業生から出た現地講師陣に加えて、瀬戸などから招聘した陶芸師たちによって継続的に指導・教育が行われてきた。その先生自身も、生徒も、当時からの30年間で大いに成長し、日本でも、メキシコ・中南米諸国でも活躍している人が多い。今回の美術セミナー・協働制作はその人たちの嬉しいトルーカへの里帰り・再会交歓そして、今後への充電の機会でもあった。

今回のセミナーは、日本からは中島勝乃利(瀬戸設楽窯)、八木三生(美夜之窯)、メキシコ側からは Benito Rivera (Metepc 市の陶匠)が参加し、学校の現役講師10名の支援を得て開催され、学校の卒業生、現在研修中の専修生、そして地元 Metepc 市の陶匠・陶工、それに日本からの参加者ら合計28名の参加者があった。

嘗てここで5年間教鞭をとったあと現在日本ベースで国際的にも活躍している中島師は、陶芸家としてのあふれる情熱と自信に満ちた独特自在の語り口を迸らせながら、ロクロを回し、紐づくり、手ひねり自在の実演をし、ものすごいスピードで次々と作品を作り出す。八木師はメキシコは今回初経験ながら、日本でも実績を積み重ねた美夜野窯大型陶板壁画の制作現場映像を披露した。参加者からは質問が相次ぎ、八木師は惜しみなくそのノウハウをも講義され、レベルの高い全参加者から賞賛の“ブラボー”を受けて涙ぐまれるほどの反響であった。

Benito 師はメキシコ伝統民芸品の“生命の木”の創成からの変遷発展を、歴史的古典作品の映像をふんだんに織り込んで、解説された。メキシコの知識人・美術作家である参加者たちにとっても初めての、興味深い講座で、大きな反響と満足があった。

講義のあとは、講師を含む全員が早速に制作室に散って、一斉に思い思いの作品制作に入った。この間八木師は日本伝統の埴輪制作の指導を行った。メキシコ人受講生も「はにわ技法」で早速“表情豊かな自分埴輪”を手際よく造っている。講座の後の二日間の制作で(乾燥期間と窯容量の制約はあったが)なんと250点以上のレベルの高い美術作品が造形された。

中4日間は、風乾(この間メキシコ人は日本美術・健康法講座を受講)を置いて一次焼き、冷却窯出し、仕上げ、釉彩色乾燥・2次焼き・冷却窯出しをおこなった。



釉葉彩色



生命の木 (Benito 師)



はにわ(受講生)

＝ 目 次 ＝

1. 陶磁器学校師弟OBのTOLUCA 回帰セミナー
2. メキシコ滞在の思い出
3. カルデロン政権の環境政策
4. オアシスジャパンの活動紹介
5. 御宿アミーゴ会「エル・マーノ」(抜粋転載)
6. メキシコ政治・経済トピックス



修了式=感謝状を Benito 講師に

翌日、会場を整えて、後援のメキシコ州教育文化省・トルーカ市教育局・西沢美術館からの修了証授与式、併せて日本大使館・日墨協会・日墨学院・地域の方々を招いての作品展示会(これに元講師として教育に携さわった川原康孝・松永大樹・故加藤千博氏らの作品参加も加えて)が盛大に行われ、全日程を終了した。今後も地元の民芸陶器の市 Metepec との技術並びに人的交流も改めて強化される機運にある。

また、この期間を通じて日本人たちはセミナー受講生などの御家庭に、ホームステイでお世話に与かり、芸術家同士の友情と理解の個人的なつながりが又一段と味わい深いものとなった。

このような日本とメキシコのプロ・セミプロたちの協働制作という場は嘗てなかったし、それが驚くべき交歓・盛り上がりのうちに行われたのは感激ものであった。

この予韻は今もなお続いており、今後の芸術家交流の継続・発展に期待感が強まっている。

400 年前、徳川家康から始まった日本とヌエバ・エスパンアとの友好関係は草の根として広がり、その草の根交流の一つが、今又ささやかな新しい一歩を踏み出したという報告である。(了)



即席野焼き還元の実演 (八木・中島講師)

会員の投稿記事

メキシコ滞在の思い出

メキシコ・日本アミーゴ会 会員 高橋 剋之



香を焚く少年

メキシコに滞在し、現在は日本に住み絵画活動を続けております。

私は武蔵野美術大学を卒業し美術教師となった後、一般企業に就職しました。しかしながら、在学中よりメキシコ、マヤの文化・歴史を学び、その魅力が忘れがたく、サラリーマン時代に誰にも頼らず、独力で渡墨費用・留学資金を貯めて、1978-83 年までメキシコに滞在して絵画・壁画の勉強及び製作を致しました。渡墨・在墨につきましては、横地先生、安藤先生方のアドバイスやご協力を賜り実現いたしました。

メキシコシティでは Viaducto に住み、San Carlos 美術学校に通い、メキシコ美術界のみならず世界の美術界で著名なルフィーノ・タマヨ画伯の指導を受ける事ができました。私の絵画芸術勉学上、終生忘れられないことです。思い切ってメキシコに行き、タマヨの警咳に接する事が出来て本当に良かったと思っております。

メキシコ滞在中に、画家広場の試験に合格して同広場にて私の作品を展示販売したり、日墨学院(リセオ)の教師をして子供たちに絵画を教えたり、遺跡発掘のお手伝いをしたりと、忙しくも充実した日々を過ごしました。また、グアテマラまで足を伸ばして当地の染物を初めて見て、日本人の発想では及びもつかないデザイン、色彩感覚に感嘆いたしました。

1981 年には、メキシコ市立文化会館(San Angel カルチャーセンター)で長さ、45 メートルにも及ぶ壁画『メキシコへの道』を製作しました。また同年、市立ベニト・ファレス美術館で企画個展を開催し、作品『群像』を同美術館に買い上げて頂きました。この個展の記念パーティには、在メキシコ日本大使館から遠藤公使(当時)のご臨席を賜りました。

1983 年に帰国後、メキシコの行事、遺跡、風景を題材とした絵画を制作しています。本年 2010 年 4 月、神奈川二科展にて『タバコを喫う男と仲間たち』(右上)で努力賞を頂きました。(了)



【高橋剋之さんの略歴及び画歴】

1965 年 武蔵野美術大学卒業後美術教師を務める
 1978 年 銀座「昭和画廊」にて個展開催。渡墨
 1979 年 メキシコ国立自治大学サンカルロス美術学校大学院壁画科入学。ルフィーノ・タマヨ画伯師事
 1981 年 同大学院壁画科修了
 壁画『メキシコへの道』を製作
 ベニト・ファレス美術館にて個展開催
 1983 年 帰国
 1981 年 銀座「昭和画廊」にて滞墨展(個展)開催

2001年 三越にて個展：『香をたく少年(セマナサンタの祭り)』
 2006年 銀座「いざ画廊」にて炎展。以後毎年開催
 2007年 第 92 回二科展：『セマナサンタの祭り B』入選
 以後毎年出品
 第 1 回銀座 deArt 展で「人気アーティスト賞」受賞
 2008年 第 93 回二科展：『司祭の儀』入選
 2010 年 神奈川二科展：『タバコを喫う男と仲間たち』で努力賞を受賞

カルデロン大統領は2006年12月の就任以来、気候変動と環境保全に強い関心を示し、国内では気候変動対策を重点政策課題と位置づけて取り組むと同時に、国際的な協力枠組みのなかでの地球温暖化対策に向けて積極的に行動している。メキシコはカンクンで今年12月に開催予定の国連気候変動会議第16回会合(COP16)の主催国であり、カルデロン大統領は、温室効果ガスの排出削減を巡って先進工業国と開発途上国との間で錯綜する利害対立を調整し、ポスト京都議定書の国際協力体制再構築を目指す国際環境会議を主宰する。本稿では、カルデロン大統領の気候変動対策に関する理念や環境保全に関する政策的取り組みの概要を紹介する。

環境は人類の共通財産 ～気候変動対策の公平な合意を～

カルデロン大統領は公式来日した2月2日に国連大学で講演し、全人類に悪影響を及ぼす地球規模の気候変動の存在に関する科学的な証拠は明白だと述べ、気候変動防止策としての二酸化炭素の排出削減あるいは温室効果ガス(GHG)の排出削減には全ての国々が責任を負っているとして、先進国も途上国も能力に応じて等しく人類共通の課題に取り組むことが議論の核心だと指摘した。

大統領は言う。「今日、世界の二酸化炭素排出の半分以上が途上国から排出されている。中国は二酸化炭素の世界最大の排出国だ。先進国が排出量を80%以上削減しても気候変動問題の解決にはつながらず、二酸化炭素の十分な削減とはならない。2050年の世界五大経済大国は、現在の途上国である中国、インド、ブラジル、メキシコの4カ国と米国で、同時に世界の五大排出国になっているだろう。」

大統領は講演で、先進国と途上国とが力を合わせて「緑の基金」を設立するなど、クリーンエネルギー主体の開発モデルへの転換を図ることの重要性を説き、貧困撲滅と福祉向上を担保する持続可能な人的開発や、正義と雇用を伴う経済成長をもたらす低炭素排出型の開発成長戦略を共有する必要性を力説した。

カンクン会議(COP16)で実効合意の形成を

カンクン国連気候変動会議(COP16)の最大課題を大統領は「全ての当事者の信頼回復」と総括し、09年12月のコペンハーゲン会合(COP15)でみられたイデオロギーの対立を超える「建設的な合意の構築と同盟の形成」を目指して、カンクン会議では「柔軟性と創造力の全てを注入する」と宣言した。

地球温暖化という気候変動に対処するためには、大統領によれば①各国が能力に応じた対策を取る、②先進国は指導力を発揮する、③途上国もGHG排出削減に取り組める、④当面の対応策と根源的な原因除去策を講じることが必要であり、COP16で実質合意すべき内容である。大統領は「メキシコは開催国として実効ある合意形成への責任を果たす」と強調した。

同様にエスピノーサ外相は7月5日、日本経団連環境安全委員会との会合で、環境と経済が均衡する持続的発展の重要性に賛同しつつ、気候変動の悪影響を抑制する「強制力をもつ実質的な国際合意」を全員参加型の透明な議論に基づきCOP16で構築するために、メキシコは主催国として努力していると述べた。

温室効果ガスの排出削減と 新エネ・省エネ推進を

メキシコは途上国として唯一、国連気候変動枠組み条約でも京都議定書でも義務のない「温室効果ガス(GHG)削減国家報告書」を国連に連続提出(第4次報告書は09年12月)している。カルデロン政権は国際的な取り組み強化と同時に、国内環境政策の体系的法制化も進めている。

メキシコのGHG削減の先駆的取り組みは04年8月に環境省主導で開始され、今では大企業約100社が自主的計画に基づきGHGの削減に努めている。



大統領府ウェブより転載

カルデロン政権は07年5月25日に『気候変動国家戦略(ENACC)』を策定し、気候変動対策(GHG排出削減)を国家発展政策の要にすると宣言した。同戦略は「エネルギーの生産と利用」では省エネルギーや効率化、再生可能エネルギー発電(12年に総発電量の8%を目標-05年3%)等の推進を定め、「植生と土地利用」では森林開発、再植林(PROARBOL)、自然保護、牧草地回復などの諸計画を列挙している。また、07年5月31日発表の『国家開発計画2007-12(PND)』でも環境の持続性を開発軸の一つとし、環境を経済社会の発展と国際競争力の強化を目指す重要政策に位置づけている。09年9月11日には『気候変動特別プログラム(PECC)』を公示し、中長期的なGHG削減計画と分野別削減目標を設定した。PECC2008-12はメキシコのGHG排出量を2030年に00年比11.2%減(06年比では20.1%減)、50年に同47.3%減(同52.6%減)とする目標を掲げ、エネルギーの生産と利用、土地利用、産業廃棄物の4分野での削減目標と行動計画を設定している。

カルデロン政権はGHG排出削減に取り組む一方、07年7月18日公表の『国家インフラ計画2007-12(PND)』では、エネルギー部門で優先順位の高い整備計画を列挙した。さらに08年11月公布の『エネルギー改革包括法』には国営石油公社(PEMEX)改革法と、代替エネルギー(新エネ)の利用促進とエネルギーの持続的利用(省エネ)の推進を企図する新法が含まれ、炭化水素資源依存の引下げを図っている。

日本企業はメキシコの環境政策の法体系化が進展する過程で、すでに様々な分野の環境ビジネスに参画している。(了)

オアシスジャパンの活動紹介

特定非営利活動法人オアシスジャパン代表理事 茂見智子

オアシスジャパンとは、メキシコにおいて環境分野で活動している NGO です。国・地域間の不公平を無くし、人としての最低限の生活環境を確保することを使命として、人々が安全な水を継続的に得る仕組みを作る活動をしています。

生活用水に雨水を

現在は、メキシコシティのクルトゥーラ・マヤに拠点を構え、トラルパンに属するアフスコ中部地域で、家庭の屋根を使って雨水を集め、フィルター等で浄水して生活用水を供給しています。Isla Urbana (イスラ・ウルバーナ) という名のこのプロジェクトは、メキシコ NGO の IRRI-Mexico と協働で行っております。イスラ・ウルバーナ・プロジェクトでは、アフスコ中部地域の 17 の家庭で雨水利用システムを設置しました。

私は、このプロジェクトの運営の為に 4 月から在墨しています。3 月に行ったオアシスジャパンの設立イベントでいただいた寄付金を利用して、雨水利用システムの設置を進めています。また、アフスコ地域でより多くの家庭が雨水を利用して生活に必要な水を手に入れることができるように現在、トラルパン政府と共に計画を立てています。

クルトゥーラ・マヤ地域では住民主体の持続可能なプロジェクトを目指しています。同地域では、住民が運営する管理組織が生まれました。これから政府との共同プロジェクトの中で、住民への設置・メンテナンス訓練等にも力を入れていきたいと思っております。

三つの方法で応援を

今までオアシスジャパンを支援して下さった方々に大変感謝をしております。また、これからも多くの人々に応援して下さるようによりしくお願い致します。3 つの方法でオアシスジャパンを応援してください。1. 時間がある方は、ボランティアとして一緒に参加してください。2. お金がある方は、寄付をお願いします。3. 時間もお金も無い方は、オアシスジャパンの活動を誰かに伝えてください。よりしくお願い致します。



マルタの家(左写真の家庭)で雨水利用システムを設置しました。彼女の家は貯水槽もポンプも

ありませんので、貯水槽も購入しました。設置作業をしていると近所の人達も集まってきました。マルタの家の屋根はとても小さいので、収穫できる雨量が少なかったのですが、隣人が雨どいを設置して、マルタの家の屋根に雨を落とすと言ってくれました。大家族で小さい子も何人もいるので、システムが役に立ってくれると嬉しいです。(了)



【編集部注:「メキシコにきれいな水をどけよう」を掲げて活動する OASIS JAPAN は、水不足が深刻なメキシコシティの貧困地域で雨水利用システムの設置を進めています。3 月の設立記念パーティの様子については関口事務局長が『アミーゴ会だより第 2 号(2010 年 4 月)』で紹介しています。

☆オアシスジャパン: <http://imagene.jp/npo/oasis/index.html>
なお、内閣府 HP には「この法人は、メキシコ合衆国の都市に住む住民に対して、貧困者の生活環境の向上並びに都市貧困の削減に関する事業及び都市の環境保全に関する事業を行い、もって都市貧困地域に居住する人々が健康で文化的な生活をできる社会の実現に寄与することを目的とする」とあり、2010 年 4 月 1 日付けで NPO として認可されています。】

お知らせ

アミーゴ会の秋期親睦ゴルフ大会

メキシコ・日本アミーゴ会恒例の親睦ゴルフ大会が予定されています。皆様お誘いあわせのうえ奮ってご参加ください。本件は 7 月 17 日付メルマガニュースでご案内しておりますのでご確認下さい。

日時: 2010 年 10 月 14 日(木) 08:00 までに現地集合
場所: 川崎国際生田緑地ゴルフ場(<http://www.kawakoku.jp/>)
申込: info@mex-jpn-amigo.org あるいは FAX: 0467-22-4225
締切日: 2010 年 10 月 1 日(金)
担当幹事: 下条、南郷、鴻巣

古代メキシコ・オルメカ文明ーマヤへの道

京都、東京、北九州、名古屋、鹿児島で標題特別展が開かれます。詳細は 6 月 18 日付メルマガニュース(アミーゴ会 HP)や順次公開される会場毎の案内を検索下さい。

- ・京都展会期: 2010 年 7 月 31 日(土)~9 月 26 日(日)
会場: 京都府京都文化博物館
URL: http://www.bunpaku.or.jp/exhi_olmeca.html
- ・東京展会期: 2010 年 10 月 09 日(土)~12 月 19 日(日)
会場: 古代オリエント博物館

エル・マーノ 「御宿アミーゴ会」会報

【注：発行日平成 22 年 6 月 30 日の No.1 より抜粋転載】

創刊号に寄せて

代表幹事 貝塚 嘉

去年は岩和田・漁民のスペイン船救難から 400 周年ということで、町は多いに昂揚しました。記念式典には皇太子殿下も御来臨賜り、思い出多い年だったと思います。しかし、ややもすると大きなイベントの後は脱力感が支配し物事が停滞しがちです。

御宿とメキシコ、スペインの交流は着実にその中身を深めていかななくてはならない。それが一段と国境が低くなったグローバル時代に生きる我々の義務であろうと思っています。幸い皆様のご尽力によって、御宿アミーゴ会が立ち上がりました。「400 周年」をステップにして、さらに交流の輪を広げ、深化させていきたいとの願いです。このことは観光立町を標榜する御宿にも大いに資するものと自負しております。

今回会員相互の情報の共有化、親睦促進を狙い広報誌を発行する運びとなりました。会の活動がこれを機にますます活発になるよう祈念すると同時に、会員の皆様から夢のあるわくわくするようなアイデアや情報が、今後とも多く寄せられるよう願っております。

革命 100 周年のメキシコへ

メキシコは今年、イダルゴ神父が起こした独立戦争の勃発から 200 周年、F. マデーロの「メキシコ革命」から 100 周年を迎えます。各種のイベントが目白押しです。

そんなメキシコへ御宿町、町観光協会が募集した観光団 20 人が 9 月に出発します。

- ・滞在期間は 9 月 13～22 日
- ・公式機関として大統領府、アカプルコ市などを訪問
- ・近く立ち上がる「メキシコ・アミーゴ会」(仮称)との交流
- ・ドン・ロドリゴの足跡探訪
- ・クエルナバカでは黒沼ユリ子さん主催のパーティなどなど。わくわくするような行事予定が組まれています。また会員の猪俣せい子さんが事前準備のため前もってメキシコに入る予定です。

【編集部注：訪墨団出発を前に 8 月 7 日(土)午後 2 時、河嶋幹事が『メキシコの今』と題してメキシコあれこれを解説します。】

御宿アミーゴ会の会員(6 月末現在、敬称略)

貝塚 嘉	代表幹事(岩和田)	谷 宣樹	(御宿台)
土屋 武彌	幹事 (岩和田)	飯田 顕正	(勝浦)
猪俣せい子	幹事 (東京)	渡邊 満	(横浜)
古山 忠夫	幹事 (御宿台)	本吉 幸子	(上布施)
古川 範男	幹事 (実谷)	黒沼 俊子	(浦安)
石川 清	幹事 (東京)	井上 幸子	(久保)
岩瀬 能和	(久保)	Aバサーニャス	(東京)
堤 慶太郎	(東京)	福井 浩正	(東京)
関 正夫	(佐倉)	小林 睦代	(東京)
関 亨	(岩和田)	ホテル里杏	(勝浦)
村石 愛二	(実谷)	ホテル・サヤンテラス	
M. サンチェス	(御宿台)		(浜)

新 J. ヒル スペイン国立セビリア大学教授(学術会員)
新 柳沼孝一郎 神田外国語大学教授(学術会員)
 ・家族会員も含めると総計約 60 人となっています。
 <名誉会員>
 故ラファエル・ゲレロ(メキシコ彫刻家)
 黒沼ユリ子(ヴァイオリニスト、メキシコ在住)
 小島 章司(フラメンコダンサー、予定)

会員情報

・A. バサーニャス氏が 5 月 29 日大宮神社で結婚式挙行。新婦は和美さん。
 ・名誉会員の黒沼ユリ子さんが主宰する「アカデミア・ユリコ・クロヌマ」の 1 月の演奏会「メキシコ音楽祭 2010」(東京・紀尾井ホール)が DVD になりました。非売品ですが、「アカデミア」の奨学資金に役立てたいとの黒沼さんの意思で希望者に限定販売。詳しくは黒沼俊子さん(電話 047-727-0227)まで。

メキシコ留学生マヌ君帰国

勝浦ロータリー・クラブの交換留学生マヌエル・オラバライア・サンチェス君が、約 10 ヶ月の留学を終え 6 月 30 日無事成田から帰国しました。

(了)

お知らせ

!!!!日本の夏はメキシカンビートに限る!!!!
横浜、京都、大阪、お台場でメキシカンサマー

夏の横浜 メキシカンハッピーじゃん!

メキシコの“伝統と革新”をテーマに **Alegria de México -Verano en Yokohama** が 7 月 24-25 日、横浜赤レンガ倉庫広場で開催 (<http://www.everlasting.tv/>)。メキシコ現代音楽の演奏やデザインペインティングの実演、メキシカンファッショントーク、個性的な装飾品などの紹介販売、多彩な食材あふれるメキシコ料理店等が出展。当会後援。メルマガニュースで案内済み。

京都でメキシコ・フェア

京都市とグアダラハラ(GDL)市との姉妹都市提携 30 周年を祝う **Kyoto-Mexico Hermanas 2010**(事務局:京都メキシコ文化協会)が 9 月 4-5 日、新風館リキューホール (<http://www.shin-puh-kan.com/index.html>) で開催されます。音楽の生演奏やファッションショー、テキーラガーデン、物産販売など多彩な催しを予定。当会後援予定。詳細はメルマガニュースで後日ご案内。なお、京都市長を団長に 8 月下旬、訪墨団が GDL 市を訪問。

フィエスタ・メヒカーナ 2010(東京・大阪)

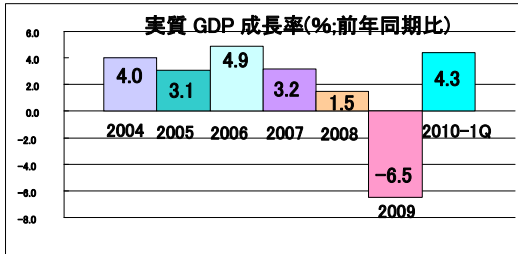
お台場で第 11 回 **Fiesta Mexicana 2010** が 9 月 25-26 日、開催。御宿アミーゴ会も出展。当会協力予定。
http://www.fiestamexicana-tokyo.com/modules/info/index.php?content_id=1。大阪では 9 月 18-20 日、新梅田シティで開催 (<http://www.skybldg.co.jp/event/mex/2010/index.html>) されます。当会協力予定。

2010年第1四半期 GDP は前年同期比 4.3%増

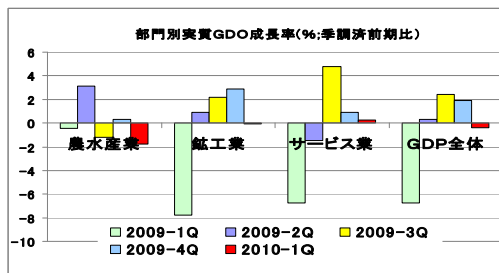
メキシコ経済はアミーゴ会だより第2号で既報のように、2009年にマイナス6.5%成長を記録したが、今年第1四半期の実質GDP成長率は前年同期比4.3%と、6

四半期ぶりにプラス成長に転じた。

国立地理統計情報院(INEGI)の5月20日発表



による10年第1四半期の産業別GDPを前年同期比で比較すると、農林水産業がマイナス1.5%、鉱工業がプラス5.4%、サービス業がプラス3.8%となり、全体では08年の第3四半期以来6期ぶりのプラス成長となった。他方、前期比(季節調整済)では農水産業がマイナス2.78%、鉱工業がマイナス0.07%、サービス業がプラス0.26%で、GDP全体ではマイナス0.35%となり、メキシコ経済は09年第4四半期から若干縮小した。《しかし、唯一プラス成長となったサ



ービス業はGDPの60%以上を占めており、各部門の寄与度からすれば全体がマイナスになる

ことに疑問が残る...》。

鉱工業部門のうちGDPの約17%を占める製造業は前年同期比でプラス9.9%と伸び、GDP全体を1.65ポイント押し上げた。前期比でもプラス0.05%とわずかであるが4期連続の拡大となった。なかでも輸送用機械はプラス54.5%と急速に回復した。そのほか機械・機器は22.5%、皮革履物は16.7%、通信電子機器は14.5%といずれも大きく伸びた。

2010年は4%台の経済成長を見込む

2010年通年の実質GDP成長率を大蔵省は4.1%、中央銀行は4~5%、民間シンクタンク(中銀聴取の平均値)は4.18%と見込んでいる。メキシコ経済は回復軌道にあるとはいえ、09年の落ち込み以前の水準にはまだまだ届かない試練が続く。

主なマクロ経済指標は直近で、輸出の大幅回復と失業率の低下傾向を維持しているが、国内販売の伸びは緩慢なままだ。メキシコ経済の現状は外需(輸出)が成長を牽引しているが、内需(内販)の確固たる回復に欠ける状況が続いている。米国市場を中心とする極端な外需依存の経済構造は、国際経済の急激な下ぶれの影響を直接的に受けやすく、安定経済成長を確保するには旺盛な内需の喚起策が必要だ。(了)

経済相にフェラーリ PROMEXICO 総裁が就任

カルデロン大統領は7月14日、ルイス経済相を更迭し、後任にブルーノ・フェラーリ=ガルシア・デア ルバ PROMEXICO(貿易投資振興機関)総裁を任命した。カルデロン政権で3人目となるフェラーリ(Ferrari)新経済相は1961年生まれのビジネスマンで、06年の同政権発足時には外務省国際協力局長に、07年には新生 PROMEXICO の総裁に就任した。民間には経済相交代を好意的に評価する声大きい。

大統領は同時に、ゴメス=モント内務相に代えてホセ・フランシスコ・ブレイク=モラBC州官房長を同政権4人目の内務相に任命した。ブレイク(Blake)新内務相の政治歴はティファアナ市議、連邦下院議員、州議会議員、州官房長(07年~10年)で、7月地方選挙で与党国民行動党(PAN)が地元BC州で大敗したこともあり、政治手腕や適性を疑問視する声がある。

経済・内務の閣僚交代の背景には、野党制度的革命党(PRI)が躍進した7月地方選挙を巡るPANの内部対立や、一向に浮揚しない経済を前にして有効な手立てを打ち出せない無策ぶりへの強い批判があるようだ。

7月地方選、PRIが9州知事選で勝利

メキシコでは7月4日、12州の知事、14州481人の州議員、13州1,009市町村の首長、総計1,502人を選ぶ統一地方選挙が実施された。

12州の知事選挙では野党PRIが9州で勝利したが、うち6州(注)で州知事の椅子を維持、アグアスカリエンテスとトラスカラではPANから奪還、サカテカスでは野党民主革命党(PRD)から奪取した。他方、PANとPRDは単独では州知事選挙に勝利できなかったが、「右と左の同盟」を組むことでPRIの伝統的地盤であるシナロア、プエブラ、オアハカの3州で連立候補を当選させた。

(注)PRI候補が当選した6州は、ベラクルス、タマウリパス、キンタナロー、イダルゴ、ドゥランゴ、チワワ。

今回の州知事選では「PRIの全面勝利」も予想されたが、PANがPRDとの左右同盟のもと上記3州を確保する「予想外の結果」を生んだ。しかし、景気回復の遅れと社会不安の増大とがカルデロン政権の支持率低下を招くなか、2012年の大統領選挙では、09年7月の連邦下院選挙でも躍進したPRIが政権復帰する可能性が高まったとされる。ただし、今回の選挙結果は多くの有権者が依然としてPRIに懐疑的であることも示している。(了)

=編集後記=

暑中お見舞い申し上げます。連日の猛暑と豪雨のなか会員の皆様もご自愛をお願いします。ようやく第3号(7月号)をお届けできます。会員諸氏から原稿を早くに頂戴しながら、ひとえに編集人の都合で完成が遅れたことをお詫びします。紙面の都合で次号送りにした玉稿もあり、これからも少々ツヨキの発行が続けられそうです。ご意見とご寄稿を引き続き期待します。[か]